

平成26年度第2回石狩市行政改革懇話会議事録

日 時：平成26年9月25日（木）15：00～

場 所：石狩市役所3階 庁議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	角川 幸治	○	(事務局) 総務部長	佐々木隆哉
副会長	永山 隆繁	○	(事務局) 総務部行政管理課長	森本 栄樹
委員	能村久美子	欠	(事務局) 総務部行政管理課職員担当主査	青木祐一郎
委員	藤沢 和恵	○	(事務局) 総務部行政管理課職員担当主査	古屋 昇一
委員	堀 弘子	○	(行革P T) 財政部財政課長	中西 章司
委員	向井 邦弘	○	(行革P T) 企画経済部企画課長	高野 省輝
委員	柴田由美子	○	(行革P T) 企画経済部政策担当参事	伊藤 学志
			(行革P T) 建設水道部建設指導課長	小島 郁也

【事務局～森本行政管理課長】

本日は大変ご多忙の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

只今から、第2回石狩市行政改革懇話会を開会いたします。本日、能村委員が所要のため欠席する旨の連絡をいただいておりますので、ここで報告させていただきます。

この後の懇話会の進行につきましては、角川会長にお願いしたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

【角川会長】

角川でございます。

懇話会としては、全体で集まるのは久しぶりですが、今年度はA・B各班に分かれてかなり頻繁に打ち合わせを行っており、各班においては何度も顔を合わせている状況です。

当初の開催スケジュールには、本日の予定はございませんでしたが、第3次実施計画に記載しております「適切な公共施設の配置」において取り組まれている「公共施設等総合管理計画」の策定について、計画の素案が一定程度まとまったため、行政改革懇話会の委員の皆さんにご意見をいただきたいということで開催したものであります。

また、先程も触れましたが、A班・B班の2班に分かれて、打ち合わせを行ってきており、本日は、その中間報告を兼ねて両班の進捗状況について、それぞれのリーダーから報告いたします。

それでは、会議次第に従いまして、進めさせていただきます。

議題（１）「公共施設等総合管理計画」について、ご説明をお願いいたします。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

今回の公共施設マネジメントのプロジェクトチームリーダーを務めている財政課長の中西と申します。よろしくお願いいたします。

本計画につきましては、厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点を持って、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設の最適な配置を実現することが必要であるとして、国が各地方公共団体に策定を求めているものであります。

それでは資料の１ページをお開きください。

まず、「計画策定の目的」としまして、本市の公共施設等の約半数が既に完成から３０年以上が経過し、老朽化が進んだ施設を多く抱えており、一層厳しさを増すことが予想される財政環境を鑑みると、全ての施設を維持・更新することは困難であることから、次世代に負担を残さない効率的・効果的な公共施設等の最適な配置を実現するためとしています。

下段のグラフは、年次別に建設した公共施設の延べ床面積を高さで表わし、施設類型毎に色分けして表記したものです。

２ページからは「公共施設の現状と課題」について記載しています。

市が所有する公共施設の総延べ床面積は約２６万㎡で、そのうちの４割を学校施設が締めています。下の円グラフをご覧くださいと分かりやすいと思います。

また、上下水道などのインフラ施設は、建設年時毎のボリュームとあわせて一般的な耐用年数を間もなく迎える状況にあるということを、３ページのグラフで表しています。

４ページには、地区別の公共施設の状況として、旧市村毎の保有面積と一人当たり換算、また、そのうちの既に使われていない施設の状況についてのデータを掲載しております。浜益では約３割が既に使われなくなった施設が占めているという状況です。

４ページには、「人口の現況と課題」ということで、国立社会保障・人口問題研究所で公表している人口推計を載せています。この推計でいくと、およそ２０年後の平成４７年には、総人口でピーク時の２０％、生産年齢人口で３５％減少すると見込まれています。

６ページからは「財政の現状と課題」ということで、市税収入は伸び悩む一方で社会保障費はここ１０年で約２倍となっていること、今後については、地方交付税の合併算定替という特例措置が合併から１０年を超えると段階的に縮小されまして１５年を経過しますとなくなることにより、歳入の大幅減が予想されていることを記載しています。

８ページからは、「将来負担コストの課題」ということで、今ある施設を全て維持していく場合必要となる将来コストを試算しています。これは、総務省で提供しているソフトを

活用し、今後40年間に必要となる費用を施設類型毎に機械的に算出したものです。

この試算でいくと、現有施設を全て維持しようとする、今後40年間に必要となる費用は、ここ5年間でかけた費用の4倍以上必要となることを示しています。

9ページには公共施設のみの試算データ、下段からはインフラ、道路・橋梁・上下水道の試算データ、10ページからはそれを類型毎にグラフにして表記しています。

また、11ページ下段からは、人口減少を見込んだ場合の一人当たりの負担額に置き換えて推計したものです。この試算でいくと実質的な一人当たりの負担額でいきますとトータルで5倍以上になるという事が試算されるという状況であります。

13ページからは、「適正管理に関する考え方」として、今後の基本的な方針について定めています。まず、「計画期間」としては概ね人口推計がなされている期間に合わせ20年間とし、「取り組み体制」としてはプロジェクトチームを編成して横断的・戦略的に取り組むこととしています。

続いて「基本方針」ですが、「公共施設」においては、人口減少を見据え施設保有面積を20%削減すること、新規の施設整備については単独施設の新規整備は行わず、複合化・集約化・、廃止・統廃合を基本とすること、

長期の活用が見込まれないものは廃止を基本とすること、廃止した施設で売却等が見込まれないものは、環境、治安に配慮し取り壊しを基本とすること。

「インフラ施設」においても、人口減少等を見据え、利用状況に応じて廃止・縮小を進めること、また、「施設の長寿命化計画」などの個別に作成している各種計画も、当計画と整合性を図りながら必要に応じて適宜見直すこととしています。

14ページの②になりますが、「必要な公共サービスの再構築」として、民間施設の活用など民間でできることは民間へ、施設面積の大部分を占める学校施設については、必要な機能は損なわないよう工夫や配慮を行いながら再編する。「協働の推進」として、民間活力の活用、市民と問題意識の共有化を図りながら課題解決に取り組む。「地域毎の公共施設の在り方」として、合併前の行政区域に拘らないこと、近隣市町村とのサービス連携を図る事を謳っています。

最後に「フォローアップの方針」として、計画は適宜見直しを行うこと、

この計画の実効性を高めるため、具体的な施設の再配置を定める実行計画を策定し、行革の位置付けで毎年度進行管理と計画の見直しを行うこと、適正配置の検討にあたっては、議会や市民に対し随時情報提供を行うこととしております。

この計画案につきましては、9月22日よりパブリックコメントを実施しております。1ヶ月間実施しましてその後必要があれば修正を加え決定という形で取り進めたいと考えております。説明は以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。

ただ今ご説明のありましたとおり「公共施設等総合管理計画」を進めていく上で人口減の問題、人口がどんどん減ってきているという事で当然税収も減ってきている。そしてこれまで造られてきた公共施設がかなり老朽化してきている、建て替えの時期が来ている。ただ、正直なところお金がないということです。それをどのように集約し、あるいは必要な部分は造り替え・建て替えを行っていくのかというところですが、委員の皆さんのご質問ご意見を伺いたいと思います。

いかがですか。

【堀委員】

委員長いいですか、堀です。

9月22日からパブリックコメントをしていますね。今日頂いた資料の6ページ、太宗という字が誤っていますので指摘しておきます。

質問です。4ページの2つ目の表、取り壊しが必要な施設は全体面積の7%を占めているということで89施設の細かい施設の資料が出るのかお聞きしたい。

13ページの、公共施設の説明で20%を縮減していくとの説明がありました。さっき5分の1は残していくという数字が出ていたと思いますが、それからするとこの20%という数字はどうか伺いたい。

14ページの公共下水道事業、石狩市下水道中期ビジョンというのがあり、これも9月22日からパブコメをしています。ここでは耐震化ということで改訂版が出ておりこれとの整合性は話合われているのか伺いたい。

また、地域ごとの公共施設等の在り方で近隣市町村との相互利用や共同利用などについて、現在考えられるのはどういうものがあるのか伺いたい。

【角川会長】

以上について、ご回答お願いしたい。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

どこの施設かについては、後でお知らせすればいいということでしょうか。

【堀委員】

89施設というのは出ていますよね。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

公表用には作成していませんが、この委員会には後でペーパーとして提出します。

下水道の中期ビジョンの件ですが、同じくパブコメをやっているが、作成過程の中で整合性を図ってはいません。パブリックコメントの期間中、双方の出された意見も含めて改めて整合性を図るというような最終的な方向性になるのかなと考えております。

地域ごとの相互利用に関して、現在具体的に検討している段階ではありませんが、例えば斎場、旧市村毎にそれぞれ一つずつありますが、それぞれにある必要があるのかについて検討に上がってくるのかなと考えております。

【堀委員】

今のところで5分の1と言ってしまいましたが11ページの人口減少による将来負担コスト増のところに5分の4の施設が維持できなくなると記してあるので逆に5分の1と解してしまい、80%かなと単純に計算しました。そこで20%という数字はどのようなかという事です。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

おっしゃるとおりで、当然5倍のコストがかかるという試算が出れば今の負担と同額のまま維持しようとするとう然5分の4を廃止・縮小しなければいけないという見方も当然あるかと思います。ただ、現実を考えたときに今ある施設の8割を無くすという事が本当に可能かどうかという事が一つ大きな問題としてあげられるかと思ひます。今回20%に設定したのは、人口が20%縮減される見込みがあるということと整合性をとるため20%としております。ただ、ご意見としてはそうした見方も当然あろうかと思ひますがなかなか8割の施設を廃止というところまでは現実的に、20年という長い期間ですが、現実的には無理があるという考えのもと20%という形にしています。

【堀委員】

先程の89施設は取り壊しが必要な施設で全体面積の7%となっています。20%ということは、あと13%あるという事です。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

現存している施設も除却する必要があるだろうという事です。

【堀委員】

そういう施設というのは発表されるのですか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

この計画が固まった後に個別に策定するというスケジュールで進めています。

【堀委員】

このようなことは、地域とか石狩市民にとって、とても重要な事だと思います。使われていない施設はいいですが、20%の目標を達成するためにはあと13%必要になってくるという事で、どのように石狩市民との合意を図っていくのでしょうか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

施設の統廃合をするにあたっては、関係する地域の住民との協議、当然市民参加の基本的な手続きを踏まえて最終的には統廃合・廃止の手続きなど、条例の趣旨に則って進めるという事です。

【堀委員】

条例の趣旨というのは、パブリックコメントとか市民の声を生かす条例に則ってという事だと思いますが、このような施設の問題は地域の人達にとっては今後どうするのかも含めて考えていかなければならない問題だと思います。ただ、その施設の利用方法も含めて議論をする場が必要ではないかと思いますがどのように考えていますか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

関係する地域とか利用者ですとか必要に応じて検討会というか、学校であれば既に地域での検討会議を開始しています。関係している方々の意見をお聴きする場を設けながら進めるという考え方です。

【角川会長】

今、公共施設を中心にご意見・質問がありましたが、公共施設以外にインフラ整備というのがあります。それも含めてご意見お持ちの方はおられますか。

【堀委員】

公共施設以外のところで言うと、ライフラインの確保をしていかなければならないというのもあるし、防災の関係からも必要なので優先されるべきだと思う。下水道の耐震化はどうしても必要になるし、橋梁もそうだと思いますが、何かあった時のライフラインの確保のためには優先して整備していくことになると思います。そう考えると公共施設の廃止・統合が優先されないという傾向が強いのではないのでしょうか。ライフライン確保のためには橋梁等の補修の方が優先順位は高いですね。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

優先順位につきましては、ここではお答えできません。

【堀委員】

公共施設に占める割合は学校施設が多く４割ほどを占めていますが、統合や廃校になる所も含んでいますか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

そこには入っていません。

【堀委員】

廃校になって使われていない元学校は８９施設に入っていますか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

８９施設に入っています。

【角川会長】

関連して更新の考え方ですが、学校等は３０年で大規模改修して６０年で建て替える。これは耐震、大きな地震があった時の崩壊を防ぐためですが、公共施設以外の道路・橋梁・上下水道は１５年、橋梁に関しては６０年と出ていますが、何に基づいているかという事と補修や建て替えの計画はどのような形でやっているのかをお聞きしたい。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

更新とか期間については、総務省で定めた全国一律の基本的な耐用年数と行うべき措置を同一の基準に当てはめて試算したものです。一つ一つを見てやっているわけではありません。現実的にそれをやってみればいつまでたっても出来ないという事もあり、国の方がソフトウェアを作り市町村に提供されたものを利用しています。従って、現実的に６０年のものが６５年もつのか６０年ももたないのかは個別の事情によって当然変わってくるものですので、今の施設の管理状況を見た中で、今後具体的につくるであろう実施計画は短期的な位置づけで、２０年先を見越すのは難しいので、５年ほどの期間を見定めた中で具体的に施設の状況を確認して実際どれだけ持つのか、どれだけ手を加えなければならないのかについて検討を更に加えて進めていく計画です。

【角川会長】

今、全国的に天候が不安定でゲリラ豪雨とか急激な台風の発生などが増え、それに伴って大規模な災害が起きており市民は不安だと思う。道路とか下水道は急に崩壊することはありませんが、橋梁とか上水道に破損があった場合、生活に直接影響があり、例えば橋梁などは崩壊すると大きな災害になってしまいますので優先するという考え方はありますか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

インフラ整備については、縮減も含めて難しいという部分もありまして具体的な目標、公共施設については20%削減すると謳っておりますが、インフラ施設については具体的な目標というか値にして出すという事も出来ないこともあり、縮減するというような基本的な精神を盛り込みつつ安全対策を施しながら長寿命化を図っていくというスタンスの記載の仕方をさせて頂いています。

【角川会長】

この10年間、公共事業イコール悪というイメージが植え付けられましたし、政権によってはコンクリートから人へというスローガンを掲げていましたので、大きな災害が続くとそうは云っておられない、人々の命や安全・安心な生活を守るためにある程度の投資をすべきだという意見も強くなっています。そこをこのところを考えながら進めて頂きたい。

また、全部造り替えるという手法ではなく、例えば道路であればオーバーレイで表面だけを1回削って舗装をし直すことで、下の路盤まで必ずしも入れ替える必要がない、あるいは下水道であれば全ての管を掘って入れ替えるのではなくて管の内面修繕という最新の手法も出てきていますので、そうした事も取り入れながら行えば予算も半分に済むこともありますので採用して頂ければと思います。

他にご意見はありますか。

【堀委員】

委員長、確認したいのですがいいですか。

石狩市橋梁長寿命化修繕計画は既にありますか、これと整合性は取れていますか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

整合性を図っているわけではありません。追って橋梁の方も整合性を図ることになります。

【堀委員】

今それぞれに計画がありますが。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

それぞれの計画は20年先までありません。その前に終わりが来る計画になっています。

【堀委員】

という事は、短い範囲だけど長寿命化のための修繕計画は既にあるという事でいいですよ。それについてもこの実施計画によって変更が生じるということですか。今ある橋梁

の長寿命化計画の年数等は変わっていくものですか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

今の想定では、実施計画に橋梁を盛り込む予定はありません。公共施設の箱物を優先で考えています。

【角川会長】

石狩に古い橋というのはどのくらいあるのですか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

橋は比較的新しいです。ですから逆にこれから一遍に改修時期が来ます。

【角川会長】

その数は表に出ていましたか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

橋梁は、平成38年以降大きく費用が掛るが、それまでは比較的持ちます。

【角川会長】

これは金額ベースですよ。何か所とは分からないのですか。橋梁は何個と数えられると思いますが。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 小島建設指導課長】

全管理橋梁数で言いますと、市内に144橋あります。それを長寿命化計画の中で管理しています。

【藤沢委員】

橋梁というのは道路と川とかで本数が変わると思います。例えば今ある数をそのままに、古くなったから掛け替えようとすれば費用はかかると思いますが、道路を変えると橋の数も変わるだろうし新しいものをつければ3本を2本に減らせるという事もあると思いますがそのような考え方はされていますか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

可能であれば当然そうしていきたいというのが今回の管理計画です。

【藤沢委員】

石狩市の資料を見ていると、必ず旧石狩市、旧厚田村、旧浜益村と表記されているのですが、いつになったら石狩市ひとつだけになるのですか。

また、人が減ってきた時に同じものが3つの所に必要なのでしょうか。人の集まる場所に集約するとか、今まで遠くに人がいたから上下水道を延ばさなければなりませんでしたが、住宅地を集約すれば費用を削減できます。

学校施設が一番多いという話でしたが、道内では廃校を利用して観光に使ったりしています。石狩市の場合は廃校を売却するなどとは違う意味で活用してもらう事を考えてはいないのでしょうか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

旧石狩、旧厚田、旧浜益という考え方を払拭しようということで、この計画の中では“旧合併前の区域に拘らず“と、あえて盛り込んでおり、ひとつの街としてどのように考えるのかということを基本的な考え方として謳っています。

人の集まる場所を集約する、所謂コンパクトシティという概念ですが、街としては当然そういった意識で取り組みたいというのは根本にはありますが、今住んでいる所を移ってというのは役所としては提案しづらいのかなというのが現状としてあると思います。出来ればそうした声を沢山頂けるとそのような進め方は出てくると思います。

【藤沢委員】

既存の街に対しては公的な部分で色んな事をするというのは大事だと思いますが、街は創るという事も一つあると思います。それは時代の流れとともに、例えば人口がこれだけ減りますと人数的な事でもその中の構成層というのは当然変わってきます。要るものと要らないものがはっきりしますので、どこに力を入れなければならないかという事を考えれば強く推し進めなければならない事もあると思います。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

貴重な意見として受け賜りたいと思います。

学校を売る・貸すという考え方ですが、基本的にはそうすべく動いております。話しも幾つかありますので極力使って頂けるように進めております。ただ、今使っていない学校は僻地なので詰めがうまくいかないというところです。

【角川会長】

ご意見を伺って、メリハリのある街づくりをという事ですね。

他にはいかがでしょうか。

【柴田委員】

私の住んでいる厚田区の望来では数年前に中学校が廃校になりました。そこは地域のほまなす園に売却され活用されています。私は厚田区の田舎に住んでいるので人口の減少によってバスの便が減らされ、地域のお店は、昔は4・5件ありましたが、セーコーマート1軒となってしまいました。田舎に住んでいられなくなるような状況が出てきていると感じます。

【角川会長】

確かに、厚田・浜益というのはどうしても人が少ない。

インフラ整備の話になりますが、石狩市の下水道の普及率はどれくらいですか。札幌市は99.7%です。下水道については、周りに家がない1軒屋が建っても下水道を新設しなければならないという非効率な部分があります。

【佐々木部長】

浜益は下水でなくて合併浄化槽で対応するという方針でやっておりますから、浜益はゼロです。旧石狩の調整区域は入れませんから、そういう意味では100%を目指しているというところまでいきません。

【永山委員】

厚田の別荘地のインフラ問題の対応とか、最近問題となってきた防災の関連で施設整備を見直すという事もあると思います。統廃合で無駄をなくすという事はあるが、防災という点で強化をしていかなければならないものもあると思いますがどうですか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

防災の強化という点については、施設のどこかとそれ以外な部分に分けられるとおもいます。施設については、学校が多くを占めており耐震化を含めて防災的な機能という点では非常に高い位置づけになると考えています。学校の数自体も減るような方向になっていますが、減った際は機能部分について残していくような工夫、考え方を持っていかなければならないと認識しています。

厚田の別荘は、人が住むことを想定していないのでインフラ整備を拡大するという考え方は持っていません。

【角川会長】

花川北の住宅地の再整備については、10年・20年の長期的構想はないのでしょうか。あそこは迷路のようになっているの、市民や市民以外の人からどうなっているのと聞かれます。防災という意味でも改善の余地はないのでしょうか。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

花川北の面整備という点については、今回の公共施設の管理計画を超える大きな視点での対応ととらえております。

【角川会長】

分かりました。

【堀委員】

今パブリックコメントが始まったのでこれから意見が出てくと思いますが、この資料を見てもパブコメとしての意見を出すというのが市民として難しいと思います。先程の89施設ではありませんが、対象となるものを公表する事は大事だと思います。

これから実施計画を立てるということですが、策定段階から市民の意見が反映されることが必要だと思います。最後に協働の推進という言葉が入っているのでしっかりやられると思いますが、市民意見の反映は大事なことですのでお願いします。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

個別具体の施設が見えないと意見を出すのは難しいという部分もありますが、個別の施設について議論する前に何故そうしなければならないのかという基本的な理解をして頂かなければならない事と、そうした基本的な考え方を示しなさいというのが国の指針です。それに基づいて今回の計画案を作っています。

個別の実施計画を作るにあたって、市民の皆様には順次お示ししながら作っていきたいと考えております。最終的には改めてその施設個別にどうするかという事も市民手続きを踏むような二段構えの手続きになろうかと思います。

廃止した施設については、廃止の段階で既に手続きを終えていますが必要に応じてお示ししたいと思います。

【堀委員】

広報8月号に、石狩市の財政状況から今のままでいけば公共施設の維持管理は難しくなっているという事も掲載されていまして、今市が対象として考えている施設については情報提供しても構わないと思います。対象施設が見えて考えるのと漠然として考えるのでは全然違いますので、具体例があるのであれば是非出して頂ければと思います。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

具体例に集中してしまい、どうしてこのようになるのかという全体の背景が、逆に見落とされないようにと考えております。

【堀委員】

ですから、広報 8 月号より連載してきていると思う。この案にならなくとも最終的に広報の中で今の状況とこのような管理計画を立てましたなどの報告が必要だと思うのでどこかの段階でお知らせ頂きたい。

【行政改革本部会議プロジェクトチーム 中西財政課長】

順次お示ししながら進めていきたいと思います。

【角川会長】

基本方針の中にも協働の推進というのがありますので、我々としては期待しながら、進めて頂きたいと思います。

おおよそのご意見が出尽くしたかと思います。

以上を行政改革懇話会の委員意見として、プロジェクトチームには受けとめていただければと思います。

いかがでしょうか。

【委員一同】

異議なし。

【角川会長】

それでは議題の 2 つ目、「各班活動の現況報告」についてです。

6 月から両班において、それぞれのリーダーを中心に、第 4 次実施計画への提案に向けて打ち合わせを複数回行ってきておりますが、本日はそれぞれの班から中間報告をさせて頂きたいと思います。

始めに、A 班ということで、私から報告をさせていただきます。

A 班の構成員は、藤沢委員、柴田委員、本日は欠席ですが能村委員、そして私の 4 名です。これまでの班独自の打ち合わせと致しましては、7 月 7 日の七夕の日に班の顔合わせも兼ねまして一度会議を開いております。食事をしながらの懇談会という形になったのですが、この時は実施計画の具体的な精査というより各委員の所見ですとか雑談めいた比較的ざっくばらんな意見交換を行っております。もちろん事務局の青木主査にも同席頂いております。

その後各委員に持ち帰ってもらって第 3 次実施事項の P P P 協働の推進を中心に各委員様に問題点とか指摘事項の洗い出しをお願いしまして、改めて 2 回目を 8 月 25 日に市役所にて開催しました。ここでは第 1 プールの各項目につきまして実施状況の具体的な内容、例えば民間への委託が行われた場合その評価基準はどのようになっているのか、或いは委

託先の具体的な名称も出来る限りお聞きしたいですとか、委託化した事業が良く分かりにくい、もう少し噛み砕いてご説明頂けませんかというようなことで、内容については青木主査の方で取り纏めをして頂きまして、回答を文書にして頂けるということでございます。

それを受けまして次の予定は10月1日に第3回目の班会議を行う予定となっております。

A班については以上となっております。

続いてB班については、永山副会長にお願いします。

【永山副会長】

B班は、7月に1回目の勉強会を持ちました。内容は第3次実施計画について青木主査から説明をしてもらいました。その後8月・9月に意見交換を行いました。

大筋は、第4次実施計画に向けてということですので、第3次実施計画の第1プールについて100%達成という表現が随所にみられる。それは形としてやったということなのでそれに対する意見を5つほど提案しようと考えています。

一つは、いくつかの実施計画で100%達成とか、例えば再任用についても100%実施という表現になっているが、検証或いは今後具体化が必要ではないかということが見込まれるので、引き続き取り組みが必要と思っています。

二つ目は、いくつかの項目の処で職員の資質や意識向上を求められていますが、前回の市の説明では職員の業務改善アンケートについて意識はあるものの目ぼしい改善項目はなかったとあったが、業務改善の意義などの研修をきちんと行い再度アンケートを多くの職員に求めるべきである。

三つ目は、ICT化については具体的な長期・短期の実施計画を策定して取り組んではどうかと考えています。

四番目は、市民へのサービスについて窓口を1階フロアーにまとめて、ボランティアを活用したフロアーサービスを行ってはどうか。

次に、再任用職員については、その能力を活用し、例えばフロアーサービスなどには最適ではないか。職員の休暇時に再任用職員を活用する。

このようなことを第1プールの処で再提案するという事で検討しています。

第2・第3プールについても、“業務管理・マネジメントの強化”にある「決定行為の見直し」は実際にICTを使ってシュミレーションすることも必要ではないか。第3プールの「ICT活用の推進」が将来問題になっているが、今年度・次年度の活用計画を明確にして取り組んでいくべきではないかと考えております。

最後に、3次計画にはなかった追加提案が3点あります。

一つは、公文書館システムの立ち上げを検討してはどうか。

二番目は、公用車の車検管理というのはコンピューターを活用することを検討する価値があるのではないか。

三番目は集中豪雨の問題ですが、経験したことのない災害への対応策の検討が必要ではないか。ということが話し合われております。最終的には来月の懇話会までに纏めたいと思います。

【角川会長】

ありがとうございました。B班の方はほとんど完成に近いですね。

次回開催までに、委員提案に向けいろいろご協力をお願いしたいと思います。

それでは、その他ですが、事務局の方で何かありますでしょうか。

【事務局～森本行政管理課長】

次回開催日程の調整をさせて頂きたいと考えておりますが、10月31日（金）、11月4日（月）の2つの候補を考えておりますが、皆様方のご都合はいかがでしょうか。

【角川会長】

10月31日金曜日午後3時半で設定したいと思います。

大変お疲れさまでした。

ありがとうございました。

（閉会）

平成26年10月16日 議事録確定

石狩市行政改革懇話会 会長 角川 幸治